

教育に関する大綱（令和4～7年度）における重点項目関連事業一覧

項目No	項目名	主な取組み (R4)	概要	課題	主なR4の実績	主なR5の取組み	担当局	担当課
1	新しい時代を生きる子どもたちのための学校教育の充実 【キーワード】 少人数アクティブ・ラーニング、ICTの活用、創造性、個別学習、自己肯定感、非認知能力、感染症リスク対策、家庭学習	市立高校のWi-Fi環境整備（生徒用）	高校GIGAスクール構想を推進し、ICTのさらなる活用のため、市立高校に生徒用Wi-Fi環境を整備する。	・BYODでのタブレットの用意と運用方法の整備が必要	・生徒用Wi-Fi環境を整備。9月から運用を開始。 ・低所得者等の事情がある生徒にタブレットを貸出し。	・BYODで使用するタブレット購入のお願いを新入生に配付。 ・生徒にWi-Fiの運用方法・使用時のマナーなどを周知。	教育委員会	教育改革推進課
		家庭へのWi-Fiルーター貸出し	家庭学習やオンライン指導を円滑に行うことができるように、設備が必要な家庭にルーターを貸出す。	・オンライン学習やオンライン指導に対応できる通信容量の確保が必要	・学校の規模に応じて2～3台を配備。 ・月4GBでの契約を実施。	・R5年度も月4GBで契約。 ・学校の規模に応じてルーターを配備。	教育委員会	教育改革推進課
		ICTを活用した学びの充実	これまでの教育実践とICT活用をベストミックスした教育の質の向上を図る。	・ICT活用の指導力の習得・向上が必要	・計画訪問、主任研修会等でICT活用方法を指導。 ・授業でのギガタブの活用事例を、教育ICT環境活用促進サイトBestMiXIGA事例集に掲載。 ・指導者用デジタル教科書（国・算・理）を12小学校に導入。	・BestMiXIGA事例集を更新。 ・指導者用デジタル教科書を12中学校で効果検証。 ・学習eポータルポータルを導入。	教育委員会	教育指導課
		ICTを活用した授業改善	ICTを効果に活用している授業を優良事例として集積し、個別最適かつ協動的な学びの実現を目指す。	・適正な使用についてのさらなる指導や活用格差への対応を図る必要がある。	・ギガタブの学習場面での効果的な活用について研究。 ・活用が進んでいない学校に対し、個別に支援。	・ICT活用及び情報モラル、デジタルシティズンシップ教育の研究の継続 ・特別支援教育分野での活用	教育委員会	教育センター
		教職員向けのICT研修の充実	教職員のICT活用能力を高めるための研修を充実させる。	・その時点における課題や学校職員のニーズに応じた研修を実施する必要がある。	・教職員のニーズに応えた活用研修。 ・研究主任等を対象とした研修の実施。	・令和4年度に開催した研修の継続実施 ・情報モラルと特別支援教育分野の研修会を実施	教育委員会	教育センター
		千葉県学力状況調査・全国学力状況調査の分析と活用	学力状況調査の結果を分析し、成果・課題を共有し、各学校に教育活動改善のための指導・支援を行う。	・分析結果（報告書）を活用し、授業改善につなげる必要がある。	・学力状況調査・全国学力・学習状況調査の結果を分析 ・結果を基に各学校に教育活動の改善指導・支援を実施	・分析結果（報告書）がより現場で活用できるよう改訂	教育委員会	教育センター
		本市の教育課題の研究	本市の教育課題について、研究協力校・協力員を指定し、研究する。	成果報告だけでなく、進捗状況を積極的に発信していく必要がある。	・「令和の日本型学校教育 千葉県型」の構築。 ・学校現場に成果を伝えた。	・令和4年度の研究を継続し、仮説の検証を実施。 ・出前講座や要請訪問をととして学校現場に還元する。	教育委員会	教育センター
2	キャリア教育の充実 【キーワード】 職業体験学習、進路指導体制、起業家教育、産官学連携、人材育成、生涯学習、活躍できる環境づくり	キャリア教育連携推進会議	学校、企業・産業界、大学等の有識者を構成員とし、キャリア教育の方向性を検討するもの。	・庁内外組織との連携、協力体制の強化が必要	11月と2月の2回開催。「千葉市のキャリア教育」の改訂に向けた検討を実施。	「千葉市のキャリア教育」の改訂を検討するために開催。	教育委員会	教育改革推進課
		地域や学校の実態に応じた職業体験学習実施への支援	企業や各種団体と連携し、出前授業や職場体験学習を充実させる。	・地域や学校の実態に応じた実施ができるよう事業を拡大する必要がある。	学校のニーズに応じた出前授業の斡旋を行った。連携する企業や各種団体の拡充を行った。	「千葉市のキャリア教育」の周知を図り、職業体験学習が円滑に進むように支援。	教育委員会	教育改革推進課
		キャリア教育に関する中学生用指導資料の充実	キャリア学習ノート「わたしの夢」（中学1・2年）、進路選択ノート「ハローマイフューチャー」（中学校3年）の改定、配付	・社会情勢や受験制度の変更にに応じて内容を精査する。	「わたしの夢」編集委員会を5月と8月、「ハローマイフューチャー」編集委員会を6月、8月、1月に開催し、内容を精査した。各学校への配付を行った。	それぞれの編集委員会を開催し、内容を精査。各学校への配付を行う。	教育委員会	教育改革推進課
		キャリア教育主任研修会の実施	研究・研修体制の充実を図る。	・各学校における指導内容を明確にしたグランドデザインの作成が十分ではない。	7月に実施。研究・研修体制の充実を図った。	継続して実施する。研究・研修体制の充実を図る。	教育委員会	教育改革推進課
		ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムによる起業家精神教育の取組	産官学コンソーシアムで起業家精神教育を地域一体となって展開し、将来の産業人材の育成するため、西千葉子ども起業塾や出前授業を実施。	・コンソーシアムの認知度の向上 ・会員の増強 ・コンテンツの増加 ・学校のカリキュラムの柔軟な運用	・西千葉子ども起業塾（参加者：入門18人、発展34人） ・動物公園PR動画企画（参加者18人） ・出前授業（4校）	・西千葉子ども起業塾 ・PR動画制作企画、コンソーシアム周知チラシ等配布 ・出前授業	経済農政局	雇用推進課
		こどもの参画推進	社会の一員としてのこどもの自覚と自立を促し、こどもの参画によるまちづくりを実現するため、ワークショップ等を実施する。	多くのこども・若者が参画できるよう、従来の取組みに加え、出張授業等を行い、学校での取組みを支援する必要がある。	・こどものまちCBT開催を開催。のべ452人参加。 ・こども・若者のカワ・クワッパを開催。21回のべ259人参加。 ・こども・若者市役所を開催。14回のべ306人参加。 ・小学校7校に11回のべ609人に出張授業を実施。	・こどものまちCBTを8月に3日間開催 ・こども・若者のカワ・クワッパ、こども・若者市役所を開催。 ・こどもの参画に関する出張授業を実施	こども未来局	こども企画課
		3	環境教育の推進 【キーワード】 環境問題、地域資源、ESD	千葉県環境学習モデル校事業	モデル校における環境学習を支援し、小・中学校における環境学習の活性化を図る。	・家庭や地域、事業者等を含めた多様な主体とのさらなる連携が必要である。	環境学習モデル校の指定 ・小学校（6校） ・中学校（6校） 環境学習モデル校活動実践集の作成、周知 ・植物栽培や清掃活動、食品ロス削減活動等を実施。	一通りモデル校に指定したため、令和5年度より、「環境学習重点実施校」と名称を変え、本格的な取組みとして、再度、事業を開始。 ・小学校・中学校のそれぞれ6校ずつ指定
環境教育教材の作成・配布	小学校4年生および中学校1年生に各環境問題についてまとめた環境教育教材を作成・配布する。			教材の作成・配布にあたり、教育委員会・学校現場との密な連携が不可欠である。	・環境教育教材を、市内小学生4年生に冊子版(9,100部)及びデジタル版、中学1年生にデジタル版で配布した。 ・環境教育教材は、ジェフユナイテッド千葉による食品ロス削減の取組みを紹介する内容とした。	R4年度と同様、小学校4年生および中学校1年生に環境教育教材を配布。	環境局	環境総務課
公民館環境教育講座の開催	公民館において環境活動団体等と連携して環境教育講座を開催する。			教材の作成・配布にあたり、教育委員会・学校現場との密な連携が不可欠である。	市内10か所の公民館で環境教育に関する講座を実施。参加人数は合計193名。	市内の11か所の公民館で環境教育について学べる講座を実施。	環境局	環境総務課
環境カレンダー事業	子どもたちが環境問題を身近に感じ、日常的な環境にやさしい行動の動機づけになるようエコライフカレンダーを作成し、市民に配布する。			市民の行動変容を促すために、効果的な内容及び配布方法を考える必要がある。	千葉市動物公園のフタコビナマケモノをモチーフとし、家庭のCO ₂ 排出量が可視化できる環境家計簿などエコな行動を示すカレンダーを作製・配布。（作製部数：25,000部） 配布先：区役所、公民館、図書館等	環境をモチーフとしたオリジナルキャラクターを用いた環境カレンダーを作製・配布。 作製部数：25,000部 配布先：区役所、公民館、図書館等	環境局	環境総務課

教育に関する大綱（令和4～7年度）における重点項目関連事業一覧

項目No	項目名	主な取組み（R4）	概要	課題	主なR4の実績	主なR5の取組み	担当局	担当課
3	環境教育の推進 【キーワード】 環境問題、地域資源、ESD	水辺環境調査（小学生向け）	身近な水環境の保全への取り組みを推進するため、市内小学生に対する水環境の保全に関する出張授業を行う。	回数を増やすための方法を検討する必要がある。	小学校への出張授業を行った（高洲第四小、27人）	市内小学生に対する水環境の保全に関する出張授業を行う。	環境局	環境保全課
		ESD研修（教職員向け）	最新の環境教育の情報の共有や、持続可能な社会の担い手づくりのための教育手法等についての研修会を行う。	ニーズを見極めながら進めていく必要がある。	オンラインにて研修を実施 参加者：千葉市教職員10名	教育センターにて研修を実施 実施時期：7月19日（水） 講師：関東地方ESD活動支援センターへ依頼	環境局	環境総務課
		木育推進事業（幼児・保護者向け）	市内保育所等に県内の間伐材を含む木材を使用したおもちゃを配布。保護者にも間伐材の利用メリット等の普及啓発を図る。	毎年作製できる数に限りがあり、各保育所等への配布に数年かかるため、作製（調達）手法の改善が必要である。	千葉県産木材を活用した木育おもちゃの作製・配布：224セット 配布先：28施設（保育所等）	千葉県産木材を活用したの作製・配布：116セット 配布先：30施設（保育所等）	環境局	環境総務課
		地球環境保全ポスター募集事業	小学生を対象に、夏休みに環境問題をテーマとしたポスターを募集し、入賞作品は、環境白書等に掲載し、そごう等で展示する。	行動変容に繋がるテーマを考える必要がある。	3つのテーマ（「気候変動対策」「谷津田の自然や生き物の保全」「食品ロス削減」）を設定し絵画を募集した。 応募総数：315点（35校）	テーマを設定し、学校を通して作品を募集する。入賞者の作品は、環境白書等に掲載するほか、生涯学習センターへの展示を行う。	環境局	環境総務課
		次世代自動車の普及啓発	環境学習モデル校に次世代自動車の公用車（FCV）に関する出張授業を行い、次世代自動車の環境性能や災害時の有用性等の普及啓発を図る。	より身近にかつ必要性を理解してもらう必要がある。	環境学習モデル校での出張授業を行った。	環境学習モデル校での出張授業を行う。	環境局	環境保全課
		谷津田の自然体験教室	谷津田やビオトープの保全や生き物に興味のある小学生を対象に、ボランティア育成を目的とした、現地での保全作業を体験する。	新型コロナで実施できないこともあるため、実施可能な環境づくりが必要である。	谷津田の自然体験教室を5回（全6回、1回は雨天中止）開催した。	谷津田の自然体験教室を年6回開催する。	環境局	環境保全課
		年齢層別ごみ削減普及啓発事業	継続的なごみの減量のため、幼少期から3R環境学習を開始し、各年齢層に見合ったごみ分別・再資源化等の重要性を啓発する。	各年齢層に見合った啓発効果が見込めるよう、内容や手法を充実させる必要がある。	・へらそうくんルーム：市内12か所の幼稚園や保育所で実施。 ・ごみ分別スクール：小学4年生を対象に全市立小学校で実施。 ・中学校家庭科教材「Eコレ」動画を全市立中学校へ配布。 ・高校生以上の学生に「食品ロス削減」等のワークショップを開催。	・へらそうくんルーム：市内12か所の幼稚園や保育所で実施。 ・ごみ分別スクール：小学4年生を対象に全市立小学校で実施。 ・高校生以上の学生に、「食品ロス削減」と「海洋プラスチックごみ削減」のワークショップを開催。	環境局	廃棄物対策課
		生ごみ資源化アドバイザー養成・派遣事業	「生ごみ資源化アドバイザー」を養成し、地域団体への助言・技術指導を行い、生ごみ減量及び資源化の普及啓発を図る。	養成した生ごみ資源化アドバイザーを活用する方法を検討する必要がある。	・生ごみ資源化アドバイザー派遣（町内自治会や学校等が実施する、生ごみ減量・再資源化に関する講座にアドバイザーを派遣） 派遣回数5回、参加者数212人	・生ごみ資源化アドバイザー派遣（町内自治会や学校等が実施する、生ごみ減量・再資源化に関する講座にアドバイザーを派遣） 派遣回数20回	環境局	廃棄物対策課
清掃工場等施設見学会	ごみ処理に関する理解を深めるため、清掃工場の施設の見学会を実施する。	新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、施設見学を行う。	新港清掃工場：156人 北清掃工場：45人 新浜リサイクルセンター：84人 合計：285人（令和5年2月末までの実績）	小学校の社会科見学等で施設見学を受け入れ、ごみ処理に関する理解を深め、環境教育の推進を図る。	環境局	廃棄物施設維持課		
4	全ての子どもたちを取り残さないための対応 【キーワード】 経済的困難、学習機会の確保、児童虐待防止、ヤングケアラー支援、子どもの権利、発達障害、相談支援、不登校対策、居場所の提供、魅力ある学校づくり	児童虐待防止	虐待を受けたと思われる児童生徒を発見した場合、速やかに児童相談所に通告する。	・虐待と思われる児童生徒を見逃さないよう早期発見する必要がある。	・各市立学校に対して、虐待の早期発見や通告するポイント等を示したリーフレットを配信した。	・虐待が疑われる児童生徒を発見した場合は、速やかに児童相談所に通告するなど、虐待対応に関する正しい理解の促進を図る。	教育委員会	教育支援課
		児童虐待における相談活動	相談・通告の受付	相談・通告件数の増加に伴う人員体制の強化	児童福祉司数 58名 児童心理司数 22名	児童福祉司数 70名 児童心理司数 25名	こども未来局	東部・西部児童相談所
		児童虐待における援助活動	安全確認、各種調査に基づく総合的なアセスメントの実施、関係調整含む必要な援助の実施	多様且つ困難ケースに的確な対応を可能とする専門性の向上	虐待対応協力員 7名 警察渉外担当官 2名 法務担当官 6名/週 常勤精神科医 1名（11月より配置）	虐待対応協力員 9名 警察渉外担当官 2名 法務担当官 6名/週 常勤精神科医 1名	こども未来局	東部・西部児童相談所
		不登校対策	不登校児童生徒の社会的自立を目指し、公的機関の支援やフリースクール等民間施設の連携強化など個々に応じた適切な支援を推進する。	・不登校の解消に向けて、特に小学校での未然防止や不登校の長期化を防ぐための支援体制の整備や多様な学習機会の確保を図る必要がある。	①教育支援センター拡充（小学校専用教室を3区に設置、LP花見川にSC1人配置） ②R5からステップルームティーチャーを4校に配置するための準備 ③教育センターの相談機能拡充。	・「不登校パッケージ」を推進。教育支援センターの小学校専用教室全教室設置完了。ステップルームティーチャーの配置完了、効果検証の実施。SCの機能強化、教職員の研修の充実、教育センターの機能拡充、フリースクールとの連携強化について継続。	教育委員会	教育支援課 教育センター
		ヤングケアラー支援	ヤングケアラーに係る相談を受けたものだけで抱え込むことなく、組織的に取り組めるようにする。	・子ども自身がヤングケアラーとなっている状況への気づき、教職員による気づき ・安心して相談できる環境	・ヤングケアラー支援プロジェクトチームを発足し検討を重ね、令和5年度の支援体制を整えた。	・令和4年度に整えた支援体制を、各部署にて実践する。また、実践した支援について検証していく。	教育委員会	教育支援課
		ヤングケアラー研修(職員向け)	ヤングケアラーの支援体制を強化するため、福祉・介護・医療・教育などの関係機関の職員が研修を行う。	ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題、本人や家族に自覚がないといった理由から表面化しにくい	回数：3回 対象：庁内外の福祉・介護・医療・教育などの関係機関の職員 参加人数：230名	回数：大規模2回、小規模3回 対象：庁内外の福祉・介護・医療・教育などの関係機関の職員、一般市民	こども未来局	こども家庭支援課
		教育支援センター「ライトポート」の機能拡充	教育支援センター「ライトポート」の全教室に小学校専用の教室環境を整備し、それぞれ2人ずつ指導員を配置する。	・小学生の通級について、原則としている保護者送迎の負担軽減と安全確保の兼ね合いを整理する必要がある。	・「ライトポート」3所に、小学生に特化した指導員を2人ずつ新規配置。 ・小学生の通級者数124人（R3：31人）	・「ライトポート」全6所において、小学生専用教室と2人ずつの専用指導員を整備予定	教育委員会	教育センター
		教育センターの機能拡充	重篤化、複雑化する不登校、ひきこもりのケースに対応するため、有資格者である「家庭訪問カウンセラー」を12人配置する。	・人材の確保と資質の一層の向上が課題である。	・家庭訪問カウンセラー2人新規配置 ・スクールソーシャルワーカー1人新規配置	・家庭訪問カウンセラー2人増員（計4人）。 ・来所相談カウンセラー1人新規配置。	教育委員会	教育センター

教育に関する大綱（令和4～7年度）における重点項目関連事業一覧

項目No	項目名	主な取組み（R4）	概要	課題	主なR4の実績	主なR5の取組み	担当局	担当課
4	全ての子どもたちを取り残さないための対応 【キーワード】 経済的困難、学習機会の確保、児童虐待防止、ヤングケアラー支援、子どもの権利、発達障害、相談支援、不登校対策、居場所の提供、魅力ある学校づくり	教育相談事業、特別支援教育指導員配置事業、学校訪問相談員派遣事業	発達障害等の本人及や保護者の相談を受け付け、学校での適応を目指した指導員の配置、学校訪問相談による校内支援体制構築等の指導・助言	・初回相談待ち日数の増加 ・配置、派遣事業を通じた校内支援体制の構築と教職員の対応力向上が必要	相談申込1,526件 待ち日数35.7日 指導員配置校数88校 学校訪問相談件数383校	待ち日数の短縮 指導員配置校数88校 学校訪問相談件数480校	教育委員会	養護教育センター
		学習・生活支援事業	就学援助を利用している世帯等の中学2年・3年生を対象に、高校進学のための学力向上を目的として、市内の公共施設で実施している。	・待機者が生じ、希望しても参加できない者がいる。 ・生活保護世帯の申込率は上昇。潜在的な需要を賄い切れていない。	市内13会場で実施 のべ13,459人の参加があった。 生活保護世帯の申込率は23%であった。	市内14会場で実施 生活保護世帯の中学1年生の学習意欲を高めるための取組を実施	保健福祉局	保護課
		発達障害児相談窓口の強化	子どもの成長の遅れや発達障害の疑いなど、保護者の不安を解消し、障害の早期発見・早期対応を図るため、相談窓口の強化を図る。	・相談機関の待機期間が長期化。 ・相談窓口が分かりづらい。 ・障害受容のできていない保護者が相談できる機関がない。	気軽に保護者が相談できる窓口として「(仮称)こども発達相談室」の開設方針を決定。	「(仮称)こども発達相談室」の開設準備に着手。	保健福祉局	障害者自立支援課 障害福祉サービス課
		LGBT（性的少数者）に関する専門相談	LGBT（性的少数者）に関する悩みを解消又は軽減するため、LGBT専門の相談窓口を設置し、運営する。	より効果的な周知方法や実施方法について検討を行う。	7月から相談日を月1回から月2回に増やし、電話相談にLINE相談を追加して実施した。	実施日：毎月第1月曜19:00～22:00、毎月第3日曜10:30～13:30 実施方法：電話及びLINE相談	市民局	男女共同参画課
		学校外教育パウチャー	生活困窮家庭へのクーポン配付による学習塾・習い事等費用の助成	財源確保（事業の原資がクラウドファンディング等の寄付による）	定員数：230人 助成決定者数：194人 利用者数：132人 登録事業所数：325	定員数：230人 助成決定者数：230人 利用者数：230人 登録事業所数：350	こども未来局	こども家庭支援課
		子どもナビゲーター	生活困窮等の状況にある児童や家庭が生活習慣を確立できるよう支援	被支援者からの支援同意が得られにくい	実施区：稲毛・中央・若葉・花見・緑 支援件数：202件 改善傾向にある児童数：20人 改善率：57.1%	実施区：稲毛・中央・若葉・花見・緑 改善率：60.0%	こども未来局	こども家庭支援課
5	公立夜間中学による学び直しの支援 【キーワード】 公立夜間中学の設置、学びの機会、学び直し	個別相談窓口の開設	・相談窓口を開設。通訳サービスを利用し多言語対応も行う。 ・相談窓口に係るポスター及びリーフレットを作成。	・相談窓口への連絡を促すために幅広くかつ効果的に周知する必要がある。 ・多言語対応が必要となる。	113件の相談 (令和4年8月～令和5年3月)	入学希望者等からの相談に対応。書類の記入支援等も実施する。	教育委員会	企画課 学事課
		学校説明会等の開催	・公立夜間中学の具体的な説明、願書等の書類作成支援を実施。 ・相談窓口に係るポスター及びリーフレットを作成。	・開催についての幅広くかつ効果的に周知する必要がある。 ・多言語対応が必要となる。	10月に市内6区で学校説明会開催（81人参加） 11月・12月に個別相談会開催（9人参加）	オープンスクール及び学校説明会を開催予定	教育委員会	企画課 学事課
6	オリンピック・パラリンピックのレガシー継承 【キーワード】 パラスポーツ、選手との交流、多様性の尊重、共生社会、国際感覚、次世代の活躍	体育・保健体育でのパラスポーツの実施	・小中学校の体育・保健体育の授業でパラスポーツを実施。 ・年間指導計画に位置付ける。	・競技用車いすに限りがあり、学校が希望する時期に使用できない。 ・各学校の取組みへの温度差がある。	・パラスポーツを授業で実践 ・パラスポーツを年間指導計画に位置付ける。	・パラスポーツを年間指導計画に位置付ける。 ・競技用車いすの巡回やパラスポーツ用具の貸出を通じて、小中学校でのパラスポーツの実践を継続していく。	教育委員会	企画課 保健体育課
		教職員向けパラスポーツ実技研修	教職員自身がパラスポーツの楽しさを実感し、パラスポーツの指導力向上を図るため、教職員向けの実技研修を実施する。	・費用や負担の少ない実施方法を検討する必要がある。	8月26日 ポートアリーナで実施（54人参加） 種目：シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、ポッチャ	職員向けにパラスポーツ実技研修を予定。（種目は未定）	教育委員会	企画課 教育センター（R5から）
		パラアスリートの学校訪問	パラアスリートの講話や競技体験会を通じて、児童生徒のパラスポーツへの関心を高め、競技や障害者への理解を深めることを目指す	訪問事業の学習効果を高めるための事前・事後学習について、各学校に委ねてしまっている。	・市内28校で実施・のべ2,552人の児童生徒が参加	・市内33校で実施予定	市民局	スポーツ振興課
		トップスポーツふれあい交流事業	子ども達のスポーツへの関心や地元チームを応援する機運の醸成、トップスポーツチームと小・中学校との交流事業を実施する。	予算の範囲内で実施可能な学校数に対し、それを上回る希望が例年来ている。	・市内で67回実施 ・のべ5,422人の児童生徒が参加	・市内で53回実施予定	市民局	スポーツ振興課
7	学校教育を支える人材の育成・確保 【キーワード】 働き方改革、ICTを活用した研修、教員の質と魅力向上、人材育成・確保	教職員の配置の最適化・専門スタッフ等の配置の充実	教職員の一人一人の心身の健康保持を実現するため、教職員の業務改善や学校業務の適正化などを実施する。	・教職員の長時間労働の解消に向け、各取組みの進捗を管理するとともに、在校等時間の状況に応じた取組みの強化等を図る必要がある。	・専科指導教員を市内小学校52校に63人配置。 ・専科指導の非常勤講師を市内小学校88校に104人配置。 ・教員業務支援員を全市立学校に配置。	・専科指導教員を市内小学校55校に71人配置予定。 ・専科指導のための非常勤講師を市内小学校107校に110人配置予定。 ・教員業務支援員を全市立学校に配置予定。	教育委員会	教育職員課
		市内6大学と連携した学生ボランティア事業	・教職を目指す学生をボランティアとして受け入れ、各校の学習支援や日常生活補助にあたる。	・交通の便等の事情により、学生の応募がない学校がある。	合計56人の参加があった。	令和4年度と同様に募集を行う	教育委員会	教育指導課
		子どもの夢をはぐくむ学校サポート推進事業	・退職教員、地域住民、大学生等の多様な専門性を備えた人材を「学校支援員」として各校に配置し、円滑な学校運営を図る。	・ニーズに合った人材を確保する必要がある。	小学校80校、中学校38校、特別支援学校2校、計120校に162人の学校支援員を配置した。	発注予定回数は今年度と同じく2754回の予定	教育委員会	教育指導課
		日本語指導ボランティアの活用	・日本語指導を必要とする児童生徒について、日本語の初期指導を行う。	・ボランティアの人材確保が難しい。	支援人数70人（小学校28校、48人、中学校13校、22人）	学校から日本語指導が必要な児童生徒の情報を収集し、日本語指導ボランティアを派遣する。	教育委員会	教育指導課
		部活動指導員の配置及び民間指導者の派遣	・学校における部活動の指導体制を充実させるため、指導員の設置または民間指導者を派遣する。	・人材の確保	民間指導者53人、部活動指導員40人を希望する学校へ派遣した。	民間指導者50人、部活動指導員40人を希望する学校へ派遣する。	教育委員会	保健体育課

教育に関する大綱（令和4～7年度）における重点項目関連事業一覧

項目No	項目名	主な取組み（R4）	概要	課題	主なR4の実績	主なR5の取組み	担当局	担当課
7	学校教育を支える人材の育成・確保 【キーワード】 働き方改革、ICTを活用した研修、教員の質と魅力向上、人材育成・確保	教職員のキャリアステージに応じた研修の充実	・千葉市教員等育成指標の柱やキャリアステージごとの目標に資する研修の充実を図る。	・新しい研修制度の開始に伴い、学校長と教職員の対話を通し、一人一人がより主体的に研修へ参加できる体制をつくる必要がある。	・県市合同での教員等育成指標を作成。 ・千葉市6つの柱に対応するキャリアステージごとの目標や研修履歴記録簿を作成して、全市立学校へ配布。	・新しい研修制度の定着を目指し、学校に対し育成指標活用に向けて通知や研修履歴記録簿の円滑な活用についての周知活動を実施。	教育委員会	教育センター
		千葉市教職員教育研究発表会の開催	・教職員の実践研究を発表する場を設け、その過程を通して教職員の資質向上を図る。	・適切な周知により、積極的な応募を促していく必要がある。	・論文9、実践11の応募があった。発表会は、対面とオンラインのハイブリッド開催としたことにより約80人が参加した。	・応募が増えるよう周知する。 ・悉皆研修や推奨研修にも発表会の参加を入れ、参加者を増やす。	教育委員会	教育センター
8	放課後における居場所と多様な体験・活動の充実 【キーワード】 放課後の居場所、多様な体験、社会性・自主性・創造性の育成	アフタースクール（AS）の拡充（R4.4時点で24校開所、R5.4に10校開所予定）	希望するすべての児童が放課後に安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を通じて社会性や自主性、創造性を育むことができる環境を整備。	・学校現場との合意形成及び具体的移行計画の策定 ・ASの導入が当面困難な学校での代替事業	・ASを6校に新規開設し、導入済校を24校とする。 ・委託料を見直し、運営コストの削減を図った。 ・AS導入の条件、学校施設の使用方法を定めたマニュアルを策定した。	・ASを10校に新規開設し、導入済校を34校とする。 ・ギガタブに対応するため、20か所でWi-Fi環境を整備。 ・総合コーディネーターによる放課後子ども教室の活動支援を18校で実施。	教育委員会	生涯学習振興課
		子どもルームの運営・整備	授業が終わった後の遊び及び生活の場を提供し、指導員の活動支援のもと児童の健全育成を図る。	更なる待機児童解消に向けた取組の推進障害児児、医療的ケア児の利用に向けた環境改善	・待機児童の解消：R3:168人 R4:83人 ・障害児児の特性を持った児童の受入数：257人 ・医療的ケア児の受入数：1名	・待機児童解消に向けた取組の推進 ・障害児児、医療的ケア児の利用に向けた環境改善 ・ギガタブ使用に向けたネット環境整備の推進	こども未来局	健全育成課
9	安全で快適な教育環境の整備 【キーワード】 通学路の安全、感染症対策、健康管理、学校規模の適正化、トイレの洋式化、大規模改修、設備	校舎や設備、トイレの改修	・建物・設備の計画的な保全改修を行い、長寿命化を図る。 ・老朽化が進んだトイレを改善し、児童生徒の生活環境の改善を図る。	適切な時期に改修を行うことで改修の時期を延ばし、事業費の縮減、平準化を図る必要がある。	・大規模改修：工事8校 設計1校 ・外部改修：工事4校 設計11校 ・トイレ改修：工事17校 設計26校	・大規模改修：工事7校 設計1校 ・外部改修：工事13校 設計2校 ・トイレ改修：工事30校 設計27校	教育委員会	学校施設課
		統合準備会の開催	・花見川第三小学校と花島小学校の統合に係る準備を行う。	・令和5年4月の統合に向けた準備を計画通りに進める必要がある。	・統合準備会を4回開催した。 ・11月5日に保護者、地域住民に対して統合校説明会を開催した（20人参加）。	4月6日に花島小学校（統合校）の開校式を開催する。	教育委員会	企画課
		通学路の安全確保	「千葉市通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の危険箇所を学校関係者、道路管理者、警察で合同点検を実施。	・状況によっては、更なる安全対策を検討する必要がある。	・学校より通学路指定の届出、通学路の危険箇所の報告 ・通学路合同点検実施 ・対策の実施、点検結果の公表	・学校より通学路指定の届出、通学路の危険箇所の報告 ・通学路合同点検実施 ・対策の実施、点検結果の公表	教育委員会 建設局	学事課 土木保全課
		交通安全教室	交通事故の撲滅を推進するため、警察署等と連携して小中学校で交通安全教室を開催し、交通ルール・マナーの向上を図る。	各校での交通安全教室の実施の徹底を図る必要がある。	・市内小中学校162校（全校）で交通安全教室を実施。 ・スタントマンによる事故再現を用いたスクエア教育技法を用いた教室を、4校で実施※（受講者数2,235人） ※うち1校は千葉市後援	・市内小中学校での交通安全教室については、引き続き実施予定。 ・スクエア・ストレートは市内6校で実施予定※ ※うち1校は千葉市後援	市民局	地域安全課
		自転車安全利用講習会・交通安全キャンペーン等の実施	交通事故の撲滅を推進するため、警察署等と連携して自転車安全利用講習会やキャンペーン等を実施。	様々な機会を捉え、SNSの活用など多様な手法で幅広い世代に対して、普及啓発を図る必要がある。	・自転車安全利用講習会は8回実施。711人の参加。 ・令和4年度自転車マナーアップ強化月間自転車安全利用及び盗難防止キャンペーン、交通安全に係るキャンペーン。	・自転車安全利用講習会は8回実施予定 ・随時、警察等と協働しキャンペーンを実施予定	市民局	地域安全課
10	千葉市への愛着と誇りの醸成 【キーワード】 地域資源の活用、愛着と誇り、千葉開府900年、郷土教育	小学校3年生用「わたしたちの千葉市」の定期改訂	・地域資源の活用を図った学習を行うための教材を改訂する。	・千葉開府900年を意識した内容を加える必要がある。	・編集委員会で検討を行い、定期改訂を実施した。	・千葉開府900年に関わる内容を加えていく。	教育委員会	教育指導課
		小学校4年生用「かがやく千葉県」の定期改訂	・地域資源の活用を図った学習を行うための教材を改訂する。	・千葉開府900年を意識した内容を加える必要がある。	・編集委員会で検討を行い、定期改訂を実施した。	・千葉開府900年に関わる内容を加えていく。	教育委員会	教育指導課
		補助教材「社会科指導資料集」の充実	・地域資源の活用を図った学習を行うための補助教材を充実させる。	・千葉開府900年を意識した内容を加える必要がある。	・編集委員会を実施し、新規資料の作成を行った。	・社会科主任研修会等で、新規資料の紹介を行う。	教育委員会	教育指導課
		教具研修の充実	社会科主任が集まる研修の場で、郷土教育に活用できる教材等を紹介する。	・授業で実際に教具の活用が図れるようにする必要がある。	・社会科主任研修会等で、教具の活用を呼び掛けた。	・一層のギガタブの効果的な活用の推進を図る。	教育委員会	教育指導課
		マンガ等を活用した郷土教育の実施	「千葉常胤物語」の歴史学習等での活用を推進する。	・6年生の歴史学習での活用方法の周知が十分ではない。	・社会科主任研修会等で、マンガ等の活用を呼び掛けた。	・社会科主任研修会等で、紙芝居の紹介をし、活用を呼び掛ける。	教育委員会	教育指導課
		本市の文化や歴史、伝統などの良さに触れる研修の実施	初任者研修や専門研修において、本市の文化や歴史、伝統等を深く知る研修を行う。また、地域資源を活用した授業等を実施する。	・現地研修の在り方や、地域資源の教材化について検討する必要がある。	・初任者研修で、千葉市6区にわたるフィールドワークを実施。 ・専門研修で、大買ハスについて現地研修を実施。	・千葉市を深く知るため、初任者研修や専門研修において、本市の文化や歴史に触れる研修を実施予定	教育委員会	教育センター
		縄文文化調査研究の推進	加曽利貝塚の新たな価値の発見と重要性の再認識を図り、発掘調査・研究を進め、その成果を広く発信する。	・調査担当者の確保	・南貝塚中央部の発掘調査が完了 ・た南貝塚北東部の出土資料の整理等を継続	・北貝塚の発掘調査に着手 ・南貝塚北東部の発掘調査の報告書を刊行 ・低地調査着手に向けた検討	教育委員会	文化財課
		加曽利貝塚の集客力向上	魅力的な縄文体験の提供やイベントの開催等により、加曽利貝塚の認知度と魅力の向上を図り、市民の関心と理解を高める。	・費用対効果の精査と実施方法や内容の適宜見直しが必要。	・外部委託による体験プログラムの実施（土・日・祝日開催） ・縄文春まつり ・縄文プチ秋まつり ・春の縄文ミニイベント	・外部委託による体験プログラムの実施（土・日・祝日開催） ・縄文春まつり ・縄文秋まつり	教育委員会	文化財課

教育に関する大綱（令和4～7年度）における重点項目関連事業一覧

項目No	項目名	主な取組み（R4）	概要	課題	主なR4の実績	主なR5の取組み	担当局	担当課
10	千葉市への愛着と誇りの醸成 【キーワード】 地域資源の活用、愛着と誇り、千葉開府900年、郷土教育	加曾利貝塚の史跡整備	・来訪者が「縄文時代に来た」と思える景観を復元し、縄文時代の人々の暮らしが体験できる環境整備を進め、本市固有の歴史や豊かな自然環境への愛着と誇りの醸成につなげる。	新博物館整備との連携が必要。	・便施設「かそりえ」新築 ・復元住居茅葺準備 ・貝層保護のための樹木伐採	・復元住居1棟再建 ・貝層保護のための樹木伐採 ・第2期史跡整備基本計画調査検討	教育委員会	文化財課
		加曾利貝塚新博物館の整備	・縄文文化の研究とその成果を市民等に発信する拠点とするため、史跡のガイダンス機能等を備えた新たな博物館を整備する。	・入札の競争性を高め、事業者からより優れた提案を引き出す必要がある。	実施方針及び要求水準書案の策定・公表	整備運営事業にかかる基本契約、工事請負契約、維持管理運営委託契約の締結	教育委員会	文化財課
		加曾利貝塚博物館の市民向け講座の実施	・考古学講座や市民向け出前講座への講師の派遣、各種団体から依頼を受けた講座への講師派遣を通して、市のアイデンティティに触れ、また自ら考える機会を提供する。	・子ども向けの講座を増やす必要がある。また、中学生・大学生・20～40代の年齢層の参加者を増やす取組みが必要。	1.考古学基礎講座 2.考古学特別研究講座 3.縄文時代研究講座 4.出前講座については、申込みはなかった。	1.考古学基礎講座 2.考古学特別研究講座 3.縄文時代講座	教育委員会	加曾利貝塚博物館
		加曾利貝塚発掘調査現地発表会等の実施	加曾利貝塚発掘調査の成果を公表するための現地見学会や市内の発掘調査の成果や近年の研究成果を公表するために遺跡発表会を行う。	・加曾利貝塚の魅力幅広い方に伝え、関心を高めてもらうための工夫が必要。	11月26日(土)開催 参加者数298人	10月開催予定	教育委員会	埋蔵文化財調査センター
		加曾利貝塚博物館への小中学校の団体見学の受入れ	・実地見学をとおし、郷土教育への関心度の増加につなげる。学芸員による解説やボラティアガイド等を実施する。	・コロナ禍の影響で、学校からの申し出が少なく、ソーシャルディスタンスを踏まえた体験学習などの工夫が必要。	登戸小外22校 県立千葉聾学校小学部	登戸小外17校を予定	教育委員会	加曾利貝塚博物館
		市内埋蔵文化財に関する展示等の実施	・埋蔵文化財調査センターや郷土博物館、生涯学習センターなどで市内の埋蔵文化財に関する展示、講座を実施する。	・郷土の歴史の理解を深めてもらうための工夫が必要。	特別展、出土品展、動物公園考古学コーナー展示、パネル展（公益財団法人千葉市教育振興財団へ委託） 遺跡発表会（2月25日開催 参加者185人）	特別展、出土品展、動物公園考古学コーナー展示、パネル展（公益財団法人千葉市教育振興財団へ委託） 遺跡発表会（2月24日開催）	教育委員会	埋蔵文化財調査センター
		「千葉氏」関連講座等の実施	企画展と関連した内容の講座や市内大学等との共催による講座を実施。また、館外へ展示パネルを貸し出し、市民が郷土の歴史に触れる機会を増やす。	・講座のテーマ設定や講師の確保が課題。また、講座以外にも周知の機会を増やす取組みを工夫する必要がある。	・千葉氏公開市民講座「鎌倉幕府成立史における千葉氏と北条氏」 ・歴史講座「関東の風雲児小弓公方足利義明とその時代」 ・千葉市・千葉大学公開市民講座「酒吞童子の物語と千葉氏」	・千葉氏公開市民講座「千葉氏と浄土信仰（仮）」 ・歴史講座 ※内容未定（特別展の関連講座を予定） ・千葉市・千葉大学公開市民講座 ※内容未定	教育委員会	郷土博物館
		「千葉氏」に関する企画展等の実施	・千葉開府900年に向けて、本市の礎を築いたとされる千葉氏の歴史や文化に対する、市民の興味・関心を高める。	・大規模な千葉氏関連の企画展を開催するためには複数年にわたる事前調査・準備が必要。	・パネル展「千葉常胤と13人の御家人たち（北関東編）」 ・特別展「我、関東の将軍にならんー小弓公方足利義明と戦国期の千葉氏ー」	・パネル展「京（みやこ）と千葉氏」 ・特別展「千葉城落城ー享徳の大乱と千葉本宗家の交代ー」	教育委員会	郷土博物館
		「千葉氏」関係史料の調査	・千葉氏関係の史料を調査・収集し、その成果を研究者や市民に広く公開する。	・全国調査の費用や人材が不足しているほか、成果を取りまとめ、整理する人員が必要。	以下の通り調査を実施した。 ・市原市（飯香岡八幡宮大般若経）、市内（宝幢院歴代住職等墓碑）、富山県魚津市（越中椎名氏関係資料）、東庄町（東氏関係資料）	千葉開府900年に向けて、資料調査を継続的に実施する。また、会計年度任用職員1人を雇用し、令和7年度に予定する資料集刊行に向けた編集作業を開始する。	教育委員会	郷土博物館
		千葉氏関連遺跡発掘調査の整理	土気東土地区画整理に伴う発掘調査資料を整理し、報告書を刊行する。	・調査費用の確保と調査成果を取りまとめ、整理する人員が必要。	なし	土気東土地区画整理に伴う発掘調査資料整理	教育委員会	埋蔵文化財調査センター
		千葉氏関連遺跡発掘調査研究の推進	千葉氏の本拠地と推定される現在の中心市街地の発掘調査を進めるとともに、概要版の刊行などその成果を広く発信する。	・調査費用の確保と調査及び成果を取りまとめ、整理する人員が必要。	院内遺跡試掘調査	院内遺跡確認調査 千葉氏関連遺跡試掘調査	教育委員会	埋蔵文化財調査センター
		「千葉市史史料編近現代」の刊行	古文書や写真などの歴史資料に基づき、明治時代から現在における千葉市の歴史を明らかにし、市民の郷土理解を深める。	・貴重な研究成果を、より多くの市民が手にすることができるよう、SNS等の活用等により公開する場が必要。	「千葉市史史料編近現代第2巻」の編集作業（同巻の掲載資料の校正、解説原稿の執筆）を進めた。	「千葉市史史料編近現代第2巻」の校正作業を行い、年度内に刊行する。また「同第3巻」の掲載資料の選定作業を並行して進める。	教育委員会	郷土博物館
		郷土博物館の展示リニューアル	・多くの方々に千葉氏など本市のあゆみを知ってもらうことで、千葉の歴史に興味関心や誇りを持ってもらう。	・市民にワクワク感を持ってもらえる展示にリニューアルするため、展示内容を構築する人員が必要。	展示リニューアル実施設計のための調査検討を実施、博物館の問題点やリニューアルの考え方、館内のゾーニング等について検討を行った。	前年度の展示リニューアル調査検討の成果を基に、令和6年度以降のリニューアル改修のための設計業務を実施する。	教育委員会	郷土博物館
		大河ドラマと連動した千葉氏PR	幅広い層に千葉氏をPRするため、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」と連動した事業を実施	大河ドラマ後のPR、20～30代の若年層へのPR	・郷土博物館で、4/23～5/15の期間大河ドラマの企画展を実施し、5622名の来館者があった。 ・8/19に千葉県教育会館で大河ドラマの出演者によるトークショーを開催し、約350名の観覧者があった。	—	総合政策局	都市アイデンティティ推進課
		紙芝居の製作	幼児・児童への周知のため4資源をテーマにした紙芝居を製作し、保育所、幼稚園、小学校等へ配布	現場での利活用方法の検討	・1,000部作成し、保育所、幼稚園、小学校等へ配布した。 ・2/17に新宿保育所で読み聞かせ会を開催した。	・保育士研修等での活用を検討 ・図書館等での展示を検討	総合政策局	都市アイデンティティ推進課
下敷きの製作	4資源をデザインした下敷きを製作し、市内の小学3年生へ配布	デザインの固定化、下敷きをどの程度使用しているのか、下敷き以外の配布物の検討	・本市の地域資源をデザインした下敷きを8100枚制作し、令和5年度の新小学3年生用に、市内の全小学校へ配布した。	・引き続き令和6年度の新小学3年生に下敷きを制作・配布する。	総合政策局	都市アイデンティティ推進課		
市内小学校へのオオガハス分根	年少時期から市の花「オオガハス」の栽培や鑑賞の機会をつくり、市民の誇りを感じるきっかけとすることを目的とする。	学校間にオオガハスへの関心の差がある。栽培技術講習を受講した教員の異動による栽培の継続。	8校	5校	都市局	緑政課 緑と花の推進室		